

駒ヶ根市立赤穂小学校 開催要項

【研究テーマ】

単元内自由進度学習 次の一步を進めよう

～自立した学習者の育成を目指して～

1 期 日 令和7年 11月6日(木)

2 会 場 駒ヶ根市立赤穂小学校

3 研究者 赤穂小学校 単元内自由進度学習部会

4 共同研究者 東京学芸大学 佐野 亮子 先生

5 日程

(1) 受 付 12:50~13:05

(2) 公開授業 単元内自由進度学習 13:15~14:00 *2時間続きでご参観ください
14:05~14:50

教 科	単 元	授業学級	授業者
算 数	「円と正多角形」	5年1組・2組・3組	5学年担任・算数専科
家庭科	「ミシンにトライ! 手作りで楽しい生活」	【学年99名】	地域ボランティア

*教室会場は当日配布の校舎配置図をご参照ください

(3) 開 会 式 15:00~15:10

① 主催者挨拶 信濃教育会研究調査部長 和田 敦 様

② 諸連絡

(4) 授業研究会 15:10~16:20

① 研究および授業概要説明 教諭 久保田大介

② グループ協議【授業・単元内自由進度学習等について】

* 佐野先生から適宜ご助言をいただきます

(5) 閉 会 式 16:20~16:30

① 会場校校長挨拶 駒ヶ根市立赤穂小学校長 西村 政春

② 諸連絡

6 その他

- ・ 駐車場は案内図をご確認の上、校庭をご利用ください。なお、雨天等で使用できない場合は、改めてお知らせいたします。
- ・ ご不明な点がございましたら、担当までご連絡ください。

駒ヶ根市立赤穂小学校

担当 中山 亮 (教頭)

電話 0265-83-3131

e-mail akaho-es@ed.city.komagane.nagano.jp

単元内自由進度学習 次の一步を進めよう ～自立した学習者の育成を目指して～

駒ヶ根市立赤穂小学校 単元内自由進度学習研究部会

私たちと子どもの歩み 《今年度(R7)の研究の概要》

目次

I 今年度の研究体制 (p.1)

- i 全校研究テーマ
- ii 4つの部会
- iii 学び創造研究会への参加 ～佐野亮子先生と共に学ぶ機会～
- iv 総合教育センター主事 大滝由紀子先生から学ぶ
- v 高学年専科・少人数加配教員・地域ボランティアさんの協力

II 今年度の部会研究テーマの決定 ～ベースとなる授業観～ (p.3)

- i 年度途中での研究テーマの一部変更
- ii 「次の一步」とは？

III 実践を行う教科・単元の決定 (p.5)

IV 教材・ワークシートづくり (p.6)

V 今年度1回目の実践《国語・図工》より ～私たちと子どものあゆみ～ (p.7)

- i 単元内自由進度学習に対し、肯定的だった子どもたちの声から
- ii 単元内自由進度学習に対し、否定的だった子どもたちの声から、次回の教師の関わりを考える
- iii 実践してみてもての職員の所感

VI 今回の実践《算数・家庭科》教材研究 (p.9) ※別紙にて

VII 今回の授業研究会について (p.10)

- i 見ていただきたい点
- ii 授業研究会 進行計画
- iii 共同研究者・参加者 名簿

I 今年度の研究体制

i 全校研究テーマ

今年度、本校の全校研究テーマは以下の通りである。

全校研究テーマ

『自分の考えをもち、自ら進んで 表現する 子どもの姿をめざして』～どっぴり～

また、この研究テーマを具現化するために、以下の視点を年度当初に共有した。

《研究の視点》

○子どもが思い・願いをもち、能動的に学びを深めることを前提とする。

- ・思わず表現したくなったり語り出したくなったりする教材研究（児童理解＋素材研究）。
- ・子どもと共に探求する教師の在り方。

- ・子どもの思い・願いがにつながる授業展開や単元展開。
- 授業の基本展開「ねらいーめりはりー見とどけ」を意識する。
- ・主体的に課題追究を始められる→子どもの思い・願いから「ねらい」を設定する。
- ・学びを深められる→子どもの追究が深まる学習材を用意する。
- ・次もやりたくなる→子どもの終末の意識を捉え、次の授業に繋げる見届けの時間。
- 単元のまとまりを意識し、単元を通しての子どもの学びや育ちを見ていく。
- ・教師の振り返り（子ども観、授業観、教材観の更新）。
- つまづきのある児童への分析をはかり(例：MIMの継続)、基礎基本の学習の力を
- ・つけるための児童の実態にあった指導・支援のあり方をさぐる。
- 【知識・技能】【思考力・判断力・表現力等】【学びに向かう力、人間性】等の三本柱の視点に立った授業改善を図る。

ii 4つの部会

全校研究テーマ、研究の視点のもと、今年度本校には以下の4つの研究部会が設定された。

部 会	研究テーマ
日常授業の更新	自ら進んで追究するための導入の在り方 ～前時の個々の振り返りを元にした、本時のめあての立て方～
生活・総合 (総合・生活)	～どっぷり～ひと・もの・ことと関わって思いが溢れ出る子どもを目指して
単元内自由進度学習	単元内自由進度学習 次の一歩を進めよう
特別支援教育	個別の指導計画をもとにした個々の児童への関わり方

部会の構成メンバーは各部会主任を除くメンバーはすべてそれぞれの希望の部会に入る形とした。子どもたちに能動的な学びを願う教師自身も能動的に研究に参画できるようにするためだ。

結果、今年度、単元内自由進度学習研究部会は6名のメンバーで進めることとなった。うち、3名は昨年度もこの部会に参加していたメンバー、また2名は昨年度の授業実践学年の教員である。昨年度得たノウハウを生かす上では、経験値は外せないのも、ありがたく感じている。

iii 学び創造研究会への参加 ～佐野亮子先生と共に学ぶ機会～

昨年度実践を行い、一定の成果を得た本校の単元内自由進度学習をさらに一段階レベルアップすべく、今年度は「学び創造研究会」に応募し、その実践校となった。

昨年度の研究では、先行研究や専門的な知見を取り入れたものの、その運営については何もかも試行錯誤の中、職員のみで進めていった。そうした経験は今に生きているとは思いますが、やはり、研究を進める上では共同で研究を進めてくださる方がいる方がはるかに研究は深まりやすい。今年度は、昨年度

「まなびのフォーラム」でもお話を伺った東京学芸大学の佐野亮子先生が共同研究者として、本校の研究に携わっていただけることとなった。これまで何回も具体的な授業構想や教材研究についてお話を伺うことができ、我々も大変刺激になっている。

iv 総合教育センター主事 大滝由紀子先生から学ぶ

主事の派遣申請システムを活用し、今年度は総合教育センター主事の大滝由紀子先生と懇談の機会を2度持つことが叶った。本校には家庭科の郡内研究委員がいるものの、これまで今回の該当単元「ミシン」について、深く教材研究をした職員は少数である状況があった。専門的な知見やミシンの技術指導を受けることで、安全な道具の使用方法や、子どものつきたい資質能力を明確にすることができた。

v 高学年専科・少人数加配教員・地域ボランティアさんの協力

今年度、本校では高学年専科・少人数加配教員が配属されており、単元内自由進度学習では授業者として授業に関わることができる体制になった。

また、今年度は、校内のクラブ活動を昨年度から一新し、地域の方々に携わっていただき、「本物」を味わう活動を行っている。地域の方々との交流が広がり深まっている中、単元内自由進度学習でも技術指導等で携わっていただけるよう、地域ボランティアさんとの話も進めてきた。今年度実践する単元内自由進度学習では、昨年度に比べてはるかに、子どもたちにとって「いろいろなことを聞くことができる大人がたくさんいる」という環境をつくることができている。

II 今年度の部会研究テーマの決定 ～ベースとなる授業観～

i 年度途中での研究テーマの一部変更

昨年度の研究を経て、年度当初には部会研究テーマを次のように設けてあった。

《年度当初の研究テーマ》

【部会研究テーマ】単元内自由進度学習 次の一步を進めよう

- i つけたい力に迫れるような、学習材、展開、ふりかえりの方法を考えること
→特に「自己調整力」と「思考力・判断力・表現力」の育成にかかわって
- ii 「協同的」「探究的」な瞬間を生み出すこと
- iii 「本物」を感じ、子ども達がもっと「自然とやってみたくなる」「ワクワクしてしまう」環境づくり

しかし、今年度、佐野先生との懇談を経て、部会の研究テーマを一部変更することとした。

《変更後の研究テーマ》

【部会研究テーマ】単元内自由進度学習 次の一步を進めよう ～自立した学習者の育成を目指して～

- i つけたい力に迫れるような、学習材、展開、ふりかえりの方法を考える。
→特に「自己調整力」と「思考力・判断力・表現力」の育成にかかわって
- ii 「本物」を感じ、子ども達がもっと「自然とやってみたくなる」「ワクワクしてしまう」環境をつくる。

まず、メインテーマに「自立した学習者」を入れることとした。佐野先生との懇談の中で、「単元内自由進度学習でいちばん育てたい子どもの姿は『自立した学習者』。自分で計画したり、自分で振り返ったりするだけでなく、「困ったときに自らどう動けるか」という視点が大切である」という話を伺った。何のために単元内自由進度学習を行うのか、その願いを研究テーマに据える必要性を感じた。

また、「協働的」「探究的」を謳った部分をなくした。この2つの視点については、昨年度の公開実践の際に参観者から出された視点であった。現在広く大切と言われている「協働的な学習」「探究的な学習」についても、その要素を単元内自由進度学習に込められたら、と安易に文言を加えてしまった形だが、佐野先生との懇談で「単元内自由進度学習ではその特性上、偶発的な子ども同士の関わり合いは大いに期待できるものの、子ども達一人一人が自分で学習を進めていくため、『協働的』なシーンを教師側が意図的に仕組みづらい。そのため、研究テーマで「協働的」を目指すのは的外れであり、そこに成果は期待しづらい」とのご指摘があった。

また、「探究的」の部分についても、iの学習材づくりに大きく依存するので、そこで扱うものとした（発展学習の充実⇒探究的な学び）。

語弊のないように述べておくが、我々は決して「協働的」・「探究的」な学習を放棄したわけではない。例えば、他の場面で協働的・探究的な学びをする際に、今回単元内自由進度学習を行うことで培われた「自己調整力」が生きるかもしれない。あくまで今回の研究では単元内自由進度＝個別最適な学習に注力したいということである。そうした意味では、単元内自由進度学習は注力する部分がやや偏った方策なのかもしれない。しかしながら、昨年度の研究の成果からもわかるように、一斉授業ではなかなか実現しづらい「自己調整力の育成」や、多様な子どもたちが取り組みやすいことなど、この学習方法に期待できる部分はかなり大きい。単元内自由進度学習の強みを、現在の我々の力量の中で最大限発揮したい、というのが今回の研究テーマを決める際の決め手である。

ii 「次の一步」とは？

今年度の研究テーマで謳った「次の一步」は、サブテーマに挙げたi、iiの内容を示している。i、iiについては、具体的に以下のようにイメージしている。

i つけたい力に迫れるような、学習材、展開、ふりかえりの方法を考えること

→特に「自己調整力」と「思考力・判断力・表現力」の育成にかかわって

今回の研究の主軸としたい部分。端的に言えば、「質の高い教材や学習材をつくる」こと。

その単元で育成すべき力を念頭に置き、教材・学習材作りを進めていく。特に、前年度の反省で出された「思考力・判断力・表現力」に迫るような問いを立てることに注力していきたい。

○ i の実現に向けて

◇校内に各教科のエキスパートの職員がいるので、随時アドバイスをいただく。

◇2回目実施の算数、家庭科については、部会内に郡内研究委員がいる。この委員は夏休み中の校外研修等を主催していくが、その際に検討中の教材などのデータを広く提示し、専門の先生方から、様々な視点で意見をいただく場を設ける。

◇教育センター主事の派遣申請制度を活用し、専門的な知見を伺い、教材研究に活かす。

また、単元内自由進度学習では、自己調整力育成のために、「子どもたちが自ら学習計画を立て、実践し、振り返り、次の学習計画を立てる」というサイクルを充実させる必要がある。そのため、授業後の振り返りの時間を大切に考えたい。具体的には下記の点を実現させたい。

○「振り返り」で実現したいこと

- ◇授業終末、学習が途中でも学習を打ち切り、確実に一定時間「振り返りの時間」を設ける。
- ◇児童が自己の学びを振り返りやすい「ふりかえりシート」を作成する。特に「今日自分は何をして、何を学んだか。次回何をしたいか」など項目を設け、振り返りやすくする。
- ◇どんなことを振り返ってほしいか、モデルを提示したり、内容を説明したりする。

iii 「本物」を感じ、子ども達がもっと「自然とやってみたくなる」「ワクワクしてしまう」環境づくり

本校の全校研究テーマにもある「どっぷり」。これを単元内自由進度学習で実現するには、教材そのもののクオリティを上げることはもちろん、「自然とやってみたくなる」「ワクワクしてしまう」環境づくりが欠かせない。さらに、多様な子どもたちが自分らしく学習できる環境を、我々教員の固定観念を取り除き構築することも大切だ。

具体物やボランティアさんから学ぶこと＝「本物」を見て、学び感じる機会が多いことや、自分で学習する環境を選べることは、単元内自由進度学習の魅力の一つであることに間違いはない。そうした環境づくりを実現するために、以下の点に注力したい。

○実現したい環境

- ◇多様な子どもたちが、自分らしく学習していくことのできる環境
- ◇子どもが問題を解決していく方法や使用する道具のルールがわかりやすい環境
- ◇「本物」が用意されており、ゴールをイメージしたり、憧れをもったりできるような環境
- ◇よりスタイリッシュで視覚的で、その世界に没頭でき、かつ、子どもの本能にうったえかけるようなワークシート、学習材、環境

Ⅲ 実践を行う教科・単元の決定

2月に行った佐野先生との懇談で、「少なくとも年に2回はやること」の価値を教わった。年に2回行うことで、教師も子どもも、1回目を踏まえての2回目の実践に向かうことができる。1回目があったからこそその2回目の自分の学び方を「自己調整」する機会が生まれるということを教わった。

そのため、2回の実践を計画した。せっかくの機会であるので、2回ともに「2教科複合型」とし、さらに1回目と2回目の教科を重ならないようにすることを考えた。

部会メンバーで検討した結果、次のように教科・単元を決めだした。

	1回目	2回目
教科・単元	国語「作家で広がるわたしたちの読書」 図工「夢のお弁当づくり」	算数「円と正多角形」 家庭科「ミシンにトライ！手作り楽しい生活」
開催時期	9月初旬～9月中旬（計12時間）	10月下旬～11月中旬（計20時間）

この教科単元に決めた理由は以下の通りである。

○教科・単元を決めた理由

- ◇昨年度は「算数と国語」という組み合わせであった。両方ともいわゆる「座学」であり、子どもたちの学習のスタイルが同じになりやすかった。今回は1回目、2回目ともに「製作系」を取り入れることで、より多様な学び方や追究の姿が表出し、子どもたちが周り自分と比較することなく、真に自分のペースで学べることをねらいたい。
- ◇国語、算数、家庭科については、校内に郡内研究委員がいるため、教材研究の際に、より具体的に専門的な知見を取り入れられる可能性がある。
- ◇学習環境を考えた際に、「本物」「具体物」を多く提示でき、子どもたちがその具体物を多く操作できる単元を選んだ。国語では、単元の内容に合致する書籍を部屋中に並べることができる。算数では机上の計算だけではなく、実測、製作、作図を行える図形領域を選んだ。
- ◇今年度、学校のクラブ活動において「アートクラブ」「手芸クラブ」があり、その両方にその道のエキスパートの地域ボランティアがいる。図工、家庭科ではそうしたエキスパートの方を、環境として位置づけられる単元、題材を選んだ。

IV 教材・ワークシートづくり

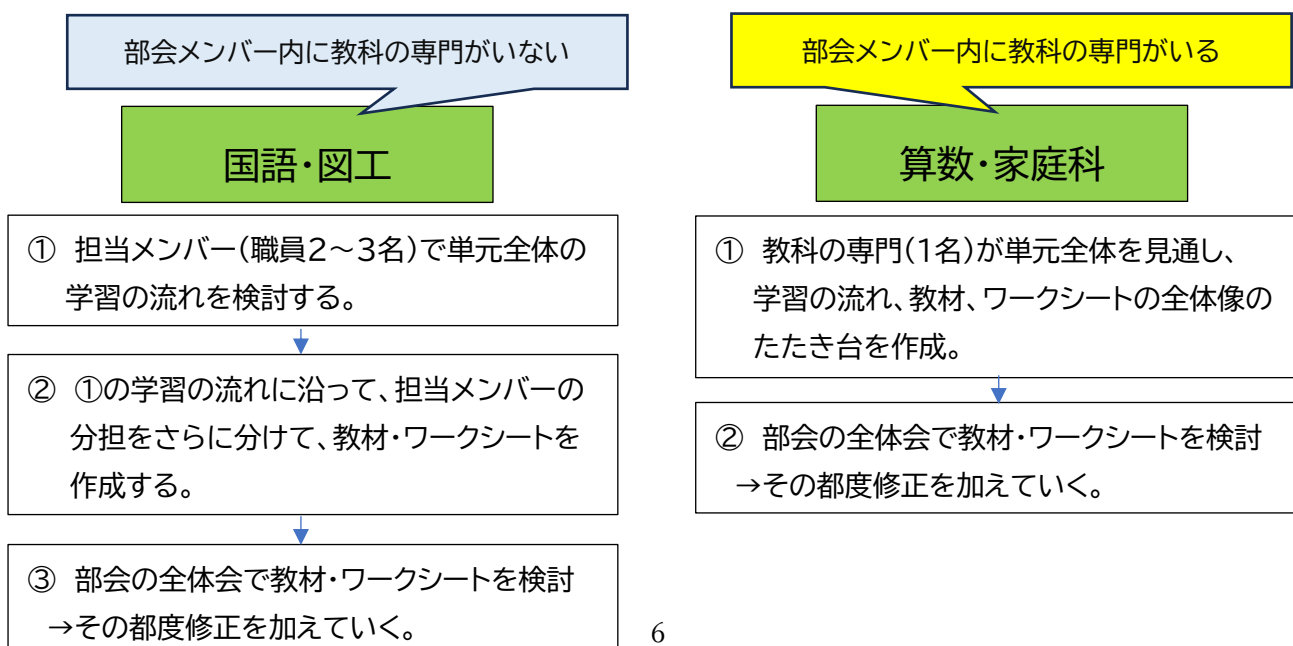
単元内自由進度学習では、一斉授業とは違い、基本的に単元の学習がスタートしたら、学習を進めることは子どもたちに委ねられ、途中でストップをかけることはできない。そのため何よりも質の高い教材、ワークシートを作成することが肝となる。(なお、ここまでに作成した教材とワークシート、教材研究資料は右の二次元コードより参照できます。ダウンロードフリーですので、よければご覧になってみてください)。



また、デザイン面はかなり注力した。こうしたところも子どものやる気を左右させるように思う。

今回は2回の実践、計4教科と分量が多く、メンバーが6名を限られているので、年度当初から部会メンバーを担当で分け、同時進行で教材づくりを進めてきた。

昨年度もそうであったが、ここは時間との勝負となる。今回は教科によって教材、ワークシートをつくる流れは異なった。部会メンバー内に、その教科の専門がいるかないかでもつくり方に差異が生じる。



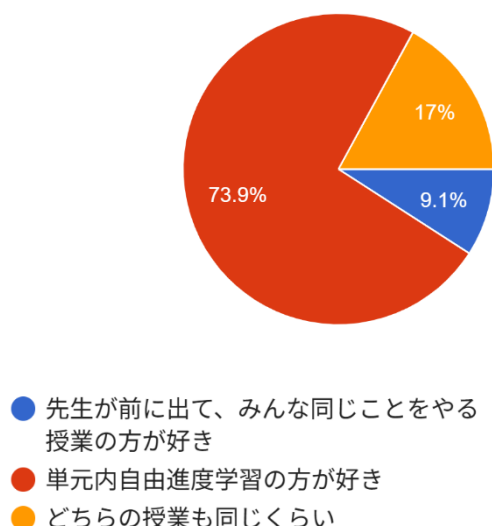
V 今年度1回目の実践《国語・図工》より ～私たちと子どものあゆみ～

i 単元内自由進度学習に対し、肯定的だった子どもたちの声から

4年次と同様に、子どもたちからは肯定的な声が多く聞かれた。

③「先生が前に出て、みんな同じことをやる授業」…自由進度学習」では、どちらの方が好きですか？

88件の回答

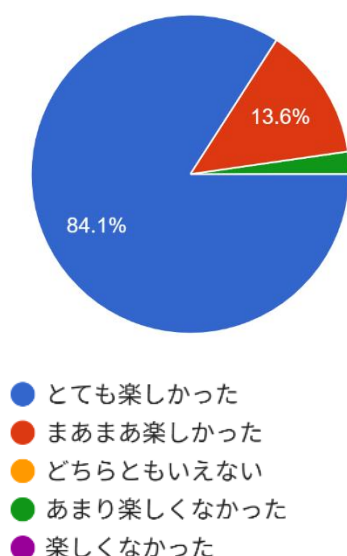


④その理由(代表的なもの)

《先生が前に出て…》
・自分でやっているより、先生が教えてくれればわかりやすいから。
・みんなで考えてみんなの意見がわかるから
・単元内自由進度学習だと、どうしても僕の場合は遅れちゃってギリギリになる。先生が前に出て、みんな同じやることをやるほうがしっかりできる。
・わからないことをすぐに聞けないから。
・友達といっしょにできるのも嬉しいけど、やっぱり先生とやるほうが効率的。
・図工とかだったら単元内のほうがいいと思うけど、それ以外の教科は先生が前に出たほうがいいと思う。
《単元内の方が…》
・自分のペースでやれる。
・普段勉強ができない場所で勉強ができるのが嬉しい！
・先生には、チェックしてもらうことで自分はどう改善すればいいのかわかる。
・先生に教えてもらって、先生が考えてるようなものだから自分で考えて自分で作り上げていくのが楽しい”
・自分で自立し勉強がたっくさんできたから
・友達と一緒にできた一人ひとりで黙々と進められるから。
・単元内は先生がこれをやってと言われてやるじゃなくて自分でこれをやろうと決めてできるから。
・友達にも教えることができるから。
・自分のペースで進むことができ、理解したうえで進むことができるから。
・分からない時、クラスでの授業より安心して人に聞けるから。
・先生に頼り切らないで自分で、友達と一緒に答えを見つたりするのが楽しいし、勉強になるから

⑤ 今回の「単元内自由進度学習」は楽しかったですか？

88件の回答

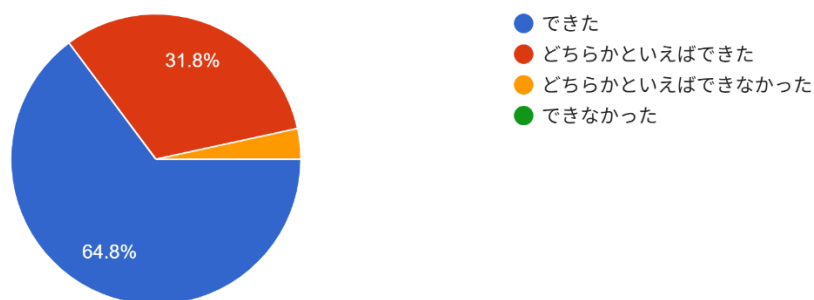


⑥ その理由(代表的なもの)

《楽しかった》
・いつもは、せんせいにきいてたけどこれは、自分で考えてできたから
・いつもよりも十分に勉強ができるから
・いろんなものを作れたりしたから。
・うまく進めることができたから
・自分が好きなところから進められるのが楽しかったから。
・自分が好きな教科だったから
・同じクラスの友達だけじゃなくて、他のクラスの友達とできたから
・友達と考えて、「これいいんじゃない？」って聞くと、「めっちゃ良いやん!!」って、返してくれるから
・うまく行ったこともあれば、失敗したこともあったから。けれど楽しかった
・時間内で完成できたから
・自分で計画を立てて自分で思考したりするのが楽しかった。
・静かにやりたいときは一人で、わかんないところがあるときは友達や先生に聞いてやるのが楽しかった。
《楽しくなかった》
・時間内に終えることができなかったから。

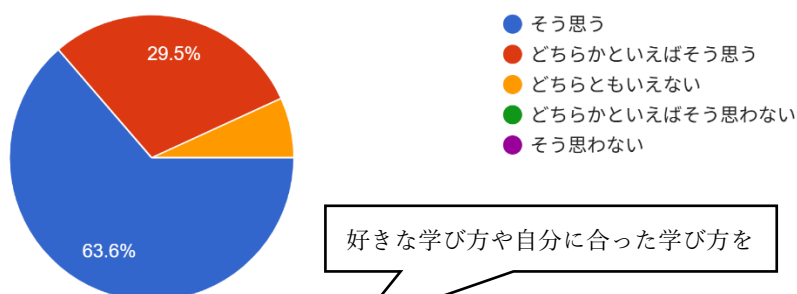
⑪ 計画どおりに進まなかったときに、その場で...進め方を先生や友達を確認したりできましたか？

88 件の回答



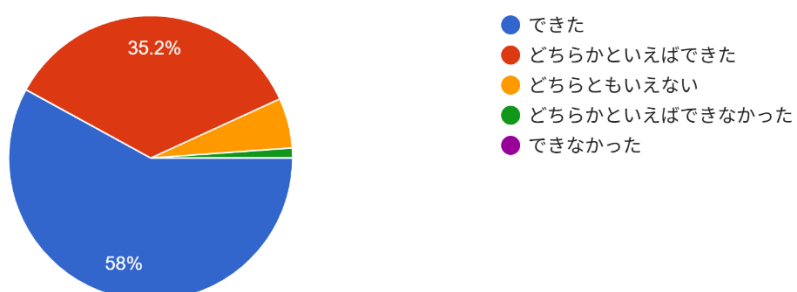
⑫ この単元内自由進度学習で、自分の力をのばせたと思いますか。

88 件の回答



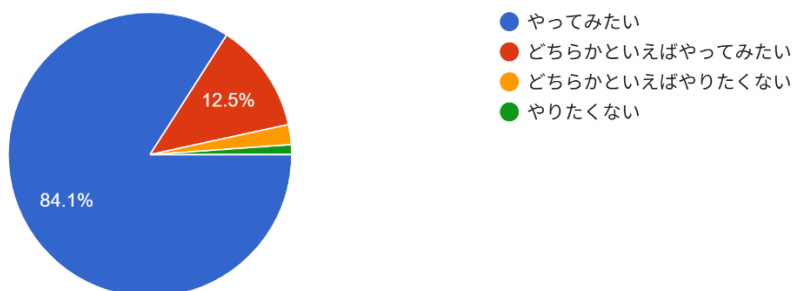
⑬ この単元内自由進度学習をしたことで、自分の...見つけたり、考えたりすることはできましたか？

88 件の回答



⑭ 他の教科や単元で「単元内自由進度学習」をまたやってみたいと思いますか？

88 件の回答



特に、「単元内自由進度学習の良さは何だと思うか」の問いには、この学習を行う大きな目的「自立した学習者を育てる…自己調整力や自己肯定感を高める」ことに関する記述も多くみられ、一定の成果はあったように思われる。

○子どもたちが考える、「単元内自由進度学習」の良さ（一部抜粋）

- ◇自分で考えて自分の苦手なものを見つけられる。自分のペースで学習を進められる。
- ◇自分の好きな教科や苦手な教科がわかって自分のペースでできる。
- ◇自分がやりたい物をやったり、友達や先生、サポートの人などいろんな人とできる。
- ◇やり方を各々選べる。
- ◇もしかしたらわからないまま次行っちゃうこともあるかもしれないけどそういうことがない。
- ◇自分で進むこと、人に聞く力がつく。やる気が出て毎日学校に行きたくなる。
- ◇他のクラスの人とも信頼関係できて、仲がよくなった気がする。

ii 単元内自由進度学習に対し、否定的だった子どもたちの声から、次回の教師の関わりを考える

一方、単元内自由進度学習に否定的な感想を持つ子の声には共通していることがあった。それは「自分では進めづらい」「自分では終わらせられない」ということ。今回、「自己調整力を育むために、自分から行動を起こすこと」を重視していたため、教師側からの積極的なアプローチは控えめにしていたことも一因と思われる。

そこで、部会では「自分では進めづらい」と答えた子へのアプローチを検討することとなった。ただし、この点について共同研究者の佐野先生（東京学芸大学）に相談したところ、「安直に積極的に手厚くサポートに入ることが『適切な配慮』なのかは検討が必要。今回の1回目を経て、2回目に自分で学習のペースややり方をコントロールできるかもしれない。「自分で自分の学習をコントロールする力を、子どもたちは持っている」ことを信じて、どう学習していくかを子どもたち自身に決めさせることも大切である」と教えていただいた。こうした経緯から、今回の実践での教師の観（スタンス）は以下のようにとることを考えている。

○今回の赤穂小学校の単元内自由進度学習における「教師の観（スタンス）」

基本的には「児童の自己調整力」の向上のため、見守るスタンスを取る。

その上で、

- ①困っている子、何をするか戸惑い止まっている子を把握し、こちらから介入するべきかを検討・判断をする。
- ②よい気づきをしている子に、さらに追究が深まるような問いかけができればする。
- ③事前に児童に「困って待っていても始まらない。解決するために自分から動こう」と指導する（日常でも）。

《教師がすること》

〔授業中〕

- ・児童の学びの様子を見取る。・児童の質問に答える。・「先生チェック」の確認。

〔授業後、授業間〕

- ・「こまくさ単元内自由進度学習チェックシート」を確認し、児童個々の進捗状況を確認。

iii 実践してみてもの職員の所感

12時間という長い時間であったが、率直な感想としてまず浮かぶのが「最初から終盤まで高い意欲で学ぶ子が多く、効果があることは実感できる」ということだった。

教科ごとに見ると、国語・図工ともに成果や課題が見えてきた。

○国語と図工をやってみてもの成果や課題

	国語	図工
成果	◇単元が終わった後に、図書館で同じ作家の本を借りて読み比べている児童もあり、「作家」が読書を広げる一要素であることを意識する姿があった。 ◇多くの子が「canva」を用いて本の紹介を作成したが、写真や画像を効果的に使うことの技能や良さを学んだ姿があった。	◇ダイナミックな環境（多目的室すべてにブルーシートを敷き、さまざまな材料や道具が自由に手に取れ、聞ける人も常時いるような環境）が意欲的で創造的な活動のもとになっていることを実感できた。
課題	◇授業での本選びの際、「今の自分に合っている本を選ぶ」という視点が曖昧になってしまった。「本を選ぶ」ということ自体が、子どもにとって（大人にとっても）とても難しいことであることを再認識した。	◇「今日、自分は何をやって、何ができて、どう感じたか。次に何をしたいか」という振り返りが甘くなってしまった。 ◇「お弁当の製作」自体は低学年でも行えること。児童の製作物の多くは高学年らしく様々なこだわりのあるものではあったが、授業者として高学年としてねらうことは何なのかをさらに明確にしたい。

双方に共通する課題として、「身に着かせたい資質能力をさらに明確にし、その具現化を目指す」ということであるように思う。今回実践を行う算数と家庭科は、特に知識技能面で「身に着かせたい資質能力」がはっきりしている特性があるので、ワークシートや教材をつくる上で念入りを見ていきたい。

VI 今回の実践《算数・家庭科》教材研究

※分量が多いため、別紙にまとめました。下の二次元コードより参照できます。



Ⅶ 今回の授業研究会について

i 見ていただきたい点 下記の点を特に見ていただき、授業研究会にて話題にしていきたいと思います。

1 教材、ワークシートはつけたい力に迫れるようなものになっているか。

研究の主軸です。単元内自由進度学習では、途中で「子どもたちの疑問などを吸い取り、全体に返す」ことができないので、子どもたちが自分（自分たち）で進めて、力を伸ばしていける教材が命です。子どもたちの学びの姿をイメージして教材づくりを進めてきましたが、実際運用してみて初めて分かる点も多々あります。開始してからもその都度教材は更新していきますが、教材についてお気づきの点があれば、教えてください。

2 学習環境は、子どもたちが「本物」を感じられたり、ワクワクしたり、自分らしく学習できたりすることができるようになっているか。

研究の2つめの柱です。学年全体で会場もダイナミックに使っての授業なので、学級での一斉授業とは違った環境面の優位さを出したいところです。この環境について思うこと、またよりよくするにはこんな環境があればよいなど、ご意見ください。

3 計画に沿って学習を進める、自分の学習したことを振り返る、次時への計画を立てる、など自己調整力を発揮しているすがたが見られたか。

単元内自由進度学習でいちばん育成したい部分です(教科の内容とは別で)。子どもたちは計画&振り返りシートをもっていますので、随時ご覧いただき、自己調整力を働かせているかを見ていただきたいです。

4 教師の出について

p 8で述べた「今回の赤穂小学校の単元内自由進度学習における『教師の観（スタンス）』」は実現されていたか、効果的であったかなど、教師の出について見ていただきたいです。

5 その他、どこからでも

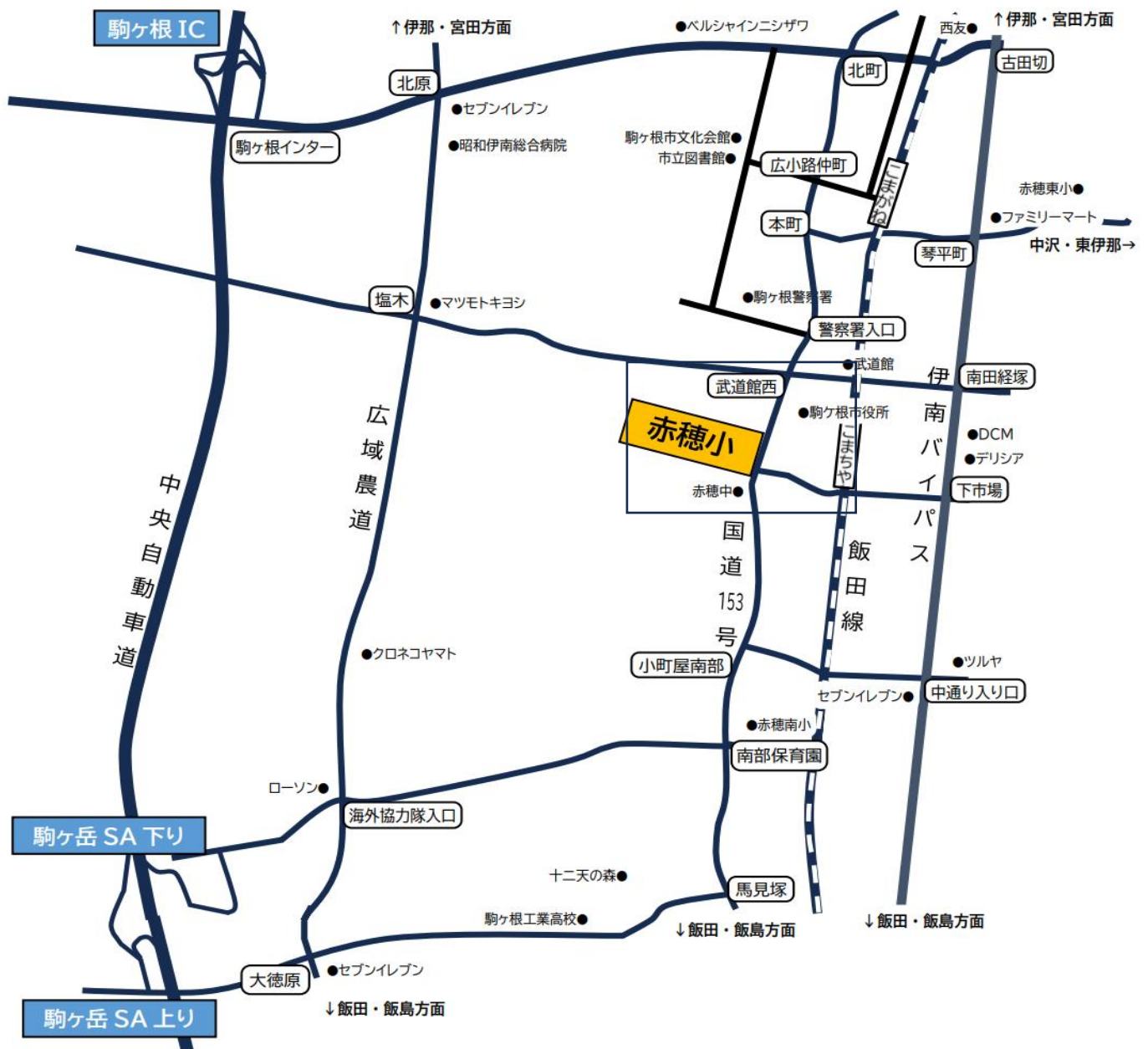
ii 授業研究会 進行計画

開会式	① 主催者挨拶 信濃教育会研究調査部長 和田 敦 様	15:00-15:10
	② 諸連絡	
授業研究会	① 研究および授業概要説明(研究部会主任 教諭 久保田 大介)	15:10-15:05
	② 本時および本単元に関する質疑	15:05-15:18
	③ 本時の授業研究会の進め方説明(5学年主任 教諭 東海林 雄大)	15:18-15:20
	④ グループ討議 ※ここで、本時に関わって、または「単元内自由進度学習」そのものについて佐野先生に伺ってみたいこともたくさん出していいただければと思います。	15:20-15:45
	⑤ グループ討議内容の全体発表	15:45-16:00
	⑥ 佐野先生へのQAコーナー	16:00-16:20
閉会式	① 会場校校長挨拶 校長 西村 政春	16:20-16:30
	② 諸連絡	

■赤穂小学校周辺図

〒399-4117 駒ヶ根市赤穂 4605 - 1

0265 - 83 - 3131



■赤穂小学校詳細図

